



お客様情報



株式会社アマナ

●本社所在地

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-43

<http://amana.jp/>

1979年に広告写真制作会社としてスタート。写真・動画・CG・イラストレーションなど、視覚から訴求するビジュアル・コンテンツのマーケットを主な領域として事業を展開している。培ってきた表現力と最新のデジタル技術を最大限に活かし、お客様の伝えたい想いをより伝わるかたちへと変えていく。多彩なビジュアル・コミュニケーションの提案を通じて、企業やブランドの付加価値を最大化することをミッションとする。

株式会社アマナ

ビジュアル・コミュニケーション・ビジネスの

包括的なセキュリティー体制を

IBM Managed Security Servicesを中心としたソリューション群で刷新

ビジュアル・コミュニケーションを中心にビジネスを展開している株式会社アマナ（以下、アマナ）は、デジタル時代に対応したビジネスの高付加価値化と信頼向上を目指し、IBM® Security AppScan、IBM Security Network Intrusion Prevention System（以下、Network IPS）およびIBM Managed Security Services（以下、MSS）からなる一連のソリューションを導入。グループ全体のICTシステムをサイバー攻撃から守るセキュリティー対策・監視体制を刷新しました。

ワークフロー全体がデジタル化し セキュリティーのさらなる強化が必須に

広告写真制作会社としてスタートしたアマナは、“伝える”から“伝わる”を実現するビジュアル・コミュニケーションのエキスパート集団として、マス媒体をはじめとする広告ビジュアル制作やWebサイトを中心としたコミュニケーション・コンテンツの企画制作、クリエイティブ素材の販売まで多角的なビジネスを展開しています。

400名の営業スタッフ、40名のフォトグラファー、200名のCGクリエイターといったマンパワーを擁するとともに、27面の撮影スタジオをはじめ自社所有の制作環境を最大限に活用し、年間の制作実績は1万5,000件に達しています。

また、契約フォトグラファーや契約企業から預託された写真の使用権を販売するストックコンテンツ販売サイト「amanaimages.com」は、動画素材や3Dモデリング素材、音素材、フォントなどの素材も取り揃えるようになり、より便利で使いやすい業界最大級のオンライン・サービスに発展しています。

最近では、「amana creative platform」（以下、acp）と呼ばれるクラウド型システムをベースとしたワークスタイル変革にも取り組んでいます。acpを通じてクライアント企業やパートナー企業とのやりとりも含めたワークフローのデジタル化を進め、ナレッジ（知識やノウハウ）のデータベース化を行うことで、制作プロセスのさらなる合理化を進めています。

こうしたビジネスの大前提となるのがICTシステムのセキュリティーで、株式会社アマナの取締役でICT部門最高責任者である石亀 幸大氏は、「アマナグループのビジネスのデジタル化は著しく、現在ではお客様とのやりとりも含めたワークフロー全体がデジタル化されています。そのすべてのプロセスがセキュアであることが必要です。例えばカタログやテレビCMの受託制作では、発表前の



事例概要

課題

- アマナグループ全体のICTシステムをサイバー攻撃から守る包括的なセキュリティ対策・監視体制の刷新

ソリューション

- IBM Security AppScan
- IBM Security Network Intrusion Prevention System
- IBM Managed Security Services

期待される効果

- Webアプリケーションのプログラム設計から脆弱性の検証、発見された問題点の改修、リリースまで、開発ワークフロー全体を通してIBM Security AppScanを活用することで、セキュリティレベルを向上
- すべてのコーポレートサイトの出入口にNetwork IPSを設置し、アマナが外部とやりとりするすべての通信がNetwork IPSを経由し、MSSによって常時監視を行うセキュリティ体制を構築

新製品情報をお預かりすることもよくあります。また、ストックコンテンツ販売サイトでも預託を受けた膨大なデジタル素材を取り扱っているほか、購入していただいたお客様の情報も大量に管理しています。こうしたきわめて機密性の高い情報が外部に流出するといった事態は、絶対に避けなくてはなりません」と話します。

グループのICTシステムを包括的に守る IBMを新たなパートナーに選定

デジタル時代の波に乗るべくアマナは、業界に先駆けてICTシステムのセキュリティ強化に取り組み、2008年には国際的な情報セキュリティ規格「ISO/IEC 27001」の認定を取得するなど、グループを挙げて体制を整えてきました。こうして培ってきた実績と信頼がアマナの大きな武器のひとつとなっており、今日のようなビジュアル・コミュニケーション・ビジネスの拡大を支えています。

サイバー攻撃がますます悪質化・巧妙化していくなか、高まるリスクに対してセキュリティ対策も常に見直しを行う必要があります。現実問題として既設のIPS（不正侵入防止システム）および監視サービスに対する懸念が高まっていました。

「当時の契約ベンダーの問い合わせ窓口は基本的にメールだけで、回答が返ってくるまでのレスポンスが非常に遅かったのです」と話すのは、アマナ ICT部門/インフラテクノロジー部のインフラエンジニアである深澤 秀生氏です。アマナコミュニケーションテクノロジー部のマネジャーを務める松田 達也氏も、「システムやサービスごとに分断されたセキュリティ対策を運用している現状に不安を感じていました」と振り返ります。

そこでアマナは当時のベンダーとの契約が2015年3月に更新期限を迎えるのを機にセキュリティ対策を抜本的に見直し、グループのICTシステム全体で一貫した体制を確立することを目指しました。そこにタイミングよく寄せられたのがIBMからの提案です。

「IBMのコンサルタントによるインタビュー形式の脆弱性診断を受けたところ、私たちが感じていたリスクを見事に言い当てるとともに、その問題点を補う包括的なソリューションを提案していただきました。これが決め手となり、新たなパートナーとしてIBMを選定しました」と松田氏。こうしてアマナは、Webアプリケーション脆弱性検査ツールのIBM Security AppScan、不正侵入検知/防御アプライアンスのNetwork IPS、セキュリティ専門家がお客様のシステムを24時間365日監視するMSSからなる一連のソリューションの導入を決定しました。

“アマナグループのビジネスのデジタル化は著しく、現在ではお客様とのやりとりを含めたワークフロー全体がデジタル化されています。そのすべてのプロセスがセキュアであることが必要です”



株式会社アマナ
取締役
石亀 幸大氏

“一連のセキュリティ対策ソリューションを導入するにあたり、IBMのコンサルタントは、弊社の通信ログを約1カ月かけて収集・解析し、どんなポリシーを定義して運用に臨むべきかをアドバイスしてくれました”



株式会社アマナ
ICT部門/インフラテクノロジー部
インフラエンジニア
深澤 秀生氏

“セキュリティが強化されたことでさまざまな方と安心してコミュニケーションが取れるようになり、マーケティングや広報の立場からもチャレンジできることが増えてきました”



株式会社アマナ
コーポレートコミュニケーション室
鎌田 優花氏

ポリシー定義から見直したことで IPSをすり抜ける攻撃をゼロに

現在、アマナではWebアプリケーション開発の一部をベトナムに移管。このオフショア開発のプロセスにIBM Security AppScanを適用しています。「プログラム設計から脆弱性の検証、発見された問題点の改修、リリースまで、開発ワークフロー全体を通してIBM Security AppScanを活用することで、Webアプリケーションのセキュリティレベルを格段に高めることができました」と松田氏は話します。

また、アマナが外部とやりとりするすべての通信がNetwork IPSを経由し、MSSによって常時監視を行うセキュリティ体制が構築されました。

「実のところ従前のベンダーの監視体制ではサイバー攻撃の一部がIPSをすり抜けてしまい、アプリケーション側の防御によって難を逃れるケースがまれにありました。現在の監視体制に移行してからは、そのようなインシデントはまったく発生していません。一連のセキュリティ対策ソリューションを導入するにあたり、IBMのコンサルタントは、弊社の通信ログを約1カ月かけて収集・解析し、どんなポリシーを定義して運用に臨むべきかをアドバイスしてくれました。こうしたIBMの多岐にわたる貢献が、着実なセキュリティレベルの向上に結び付いています」と、深澤氏は評価します。

サイバー攻撃の動向をいち早くつかみ 先手を打った対策を目指す

サイバー攻撃はますます悪質化・巧妙化しているだけに、アマナでは今後も引き続きセキュリティ対策の体制をさらに強化していく考えです。そうした将来に向けて同社 ICT部門/インフラテクノロジー部のマネジャーを務める棚井 剛氏は、「今回、セキュリティ対策の体制を刷新しましたが、現状ではパッシブなものでしかなく、新たな脅威に対して後追いの対策しかできません。そこで今後はよりアクティブな方向でのセキュリティ強化を図るために、サイバー攻撃の動向をいち早く掴み、先手を打った対策をアプリケーションの改修やバージョンアップに反映していくといったアプローチを考えています。セキュリティに関するIBMの最先端かつグローバルな知見を生かし、定期的な脆弱性診断を含めた今後の運用フローの構築をご支援いただけたらと思います」とIBMに対して期待を寄せています。

一方、同社コーポレートコミュニケーション室の鎌田 優花氏は、今後のWebサイトのあり方を見据え、「弊社では一般向けの公開Webサイトについても随時リニューアルを重ねながら、コンテンツを拡充しています。その延長線上で今後は一方通行の情報発信にとどまらず、チャットやソーシャルなどの機能も実装し、よりすそ野の広いお客様と交流できるコミュニケーション・チャンネルに発展していけたらと考えています。セキュリティが強化されたことでさまざまな方と安心してコミュニケーションが取れるようになり、マーケティングや広報の立場からもチャレンジできることが増えてきました」と構想を示します。

グループ全体のICTシステムをますます悪質化・巧妙化していくサイバー攻撃から守るセキュリティ対策・監視体制を刷新し、セキュリティレベルを向上しているアマナ。同社はより一層セキュアなビジネスの基盤を整え、“伝わる”を実現する常に新しいビジュアル・コミュニケーションを社会に提供していきます。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2015

All Rights Reserved

12-15 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.comおよびAppScanは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2015年12月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談いただくか、以下のWebサイトをご覧ください。

ibm.com/security/jp
